

あいさつ

と でつながる上島町



上島町長
上村 俊之

上島町の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、久しぶりの笑顔に囲まれながら、ふるさとを映し出した広報新年号や上島町CATVを見ている方々もいらつしやるのではないのでしょうか。

昨年を顧みますと、宮崎の「口蹄疫」発生・上海万博の開催・菅内閣誕生・普天間飛行場移設問題・子ども手当支給・「はやぶさ」の帰還・参院選民主大敗・ねじれ国会・記録的猛暑・尖閣諸島問題・チリ鉱山事故奇跡の救出・ノーベル賞受賞等々、様々な出来事の中で、上島町では一昨年のベルリン世界陸上銅メダルという快挙に続き、村上幸史選手が広州アジア大会にお

いて金メダルを獲得し、上島町民に「誇り」を与えてくれたのと同時に、「努力」の大切さも教えてくれました。

アジア大会前の競技会においても、国内無敵ではありましたが、80mに届かない記録もあり、私は心配をしていました。

しかし、そこには濱元監督の御指導と、明確な目標を定めた計画的な練習メニューがあつて、その結果は優勝だけではなく83m15cmという自己新記録を生み出しました。その精神力の強さと目標に向かう忍耐力は、上島町行政の参考とすべきものであり、周りの声に惑わされず、明確な目標に向けてくれることなく進むことの大切さも再認識させてくれました。

アジアの次は世界!!

上島町行政も村上選手に負けないよう、町民の皆様の更なる生活環境向上を目指して、努力を積み重ねてまいります。

さて、平成20年から始まった「ふるさと納税」も3年を経過し、上島町も町内外から多くのご寄付を頂いています。「ふるさと上島町」のために、力強い励ましと温かい気持ちを届けてくれる皆さんに、重ねて感謝を申し上げます。その中でも、毎年のように納税していただいている方に対して、型通りの御礼内容になっている可能性があり、配慮が足りなかったのではないかと感じています。

今後とも、皆様の気持ちに応えられるよう、「島に帰ってみようか」と思っていただけけるような、自慢のふるさと創りを目指してまいりますので、変わらぬご支援を頂きますようお願い申し上げます。

本年は「生名橋」が開通し、上島町も新たな時代を迎えることになります。また、「ゆげロツジ」「海光園」「岩城庁舎」「公営住宅」「定住

促進研修所」なども完成し、生活基盤施設が充実致します。

愛媛県にも若い中村知事が誕生し、継続課題への挑戦として「上島架橋の推進」、岩城橋の実現を公約とされていますので、町民の皆様のご協力をいただきながら、一期4年間の内に、何としても岩城橋架橋の槌音を響かせなければなりません。

ただ、行政の仕事がそうであるように、これらの施策も町民の皆様にとって、何かの「きっかけ」でしかありません。上島町の主役は町民一人一人であり、地域が明るくなるか暗くなるかは皆様の気持ち一つです。

私がいつも自慢していることは、上島町民に自主性があり元気があることです。子供たちが明るく挨拶をしてくれることです。この瀬戸内の離島である上島町が限らない可能性を持っていることです。

私は、今後も理想のリーダーシップを追い求め、上島町行政も全力で町民の皆さんをサポートしてまいります。

新知事が「みんなでつくろう、愛顔（えがお）あふれる愛媛県」をキャッチフレーズにしているように、私たちは「海と緑と太陽と、笑顔でつながる上島町」を旗印に、上島町の島々に大きな樹を育み、美しい四季の花を咲かせようではありませんか。

新年が皆様にとりまして、より一層の飛躍の年となり、健康で明るく楽しい日々になりますことを、心から祈念申し上げます。この一年間も様々な方面でお世話になりますことを、改めてお願い申し上げます。御挨拶と致します。

上島町長 上村 俊之

平成23年 新年のご

海と緑と太陽
笑顔



上島町議会議長
原 博彦

上島町民の皆様並びに関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。
ご家族お揃いで清しい新年を迎えられたことと存じます。

本年も上島町議会の議員活動に関しまして、格別のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。上島町が誕生して7年目に入りましたが、地域間の交流は離島間の交通体系等の問題もあり必ずしも順調とは思えません。しかし、今年はこの交通体系に変化があります。愛媛県からの大きなお年玉となった上島架橋の一つ生名橋です。皆様すでにご承知のように供用開始が2月に予定されており、弓削生名の両地域間が待ち時間なくして移動が可能となり、上島町

としても大きく前進できる年だと思えます。

新たに交流拠点施設として年内に完成が予定されている施設が弓削地区に離島体験滞在交流施設（ゆげロッジ）生名地区に立石港務所2階に集会施設、岩城地区には岩城総合支所庁舎2階の集会施設及び定住促進拠点施設等があり、既存の施設を含め町内間の交流並びに来町者（都市）との交流の準備は着々と整いつつあります。また、高齢者福祉施設の拠点ともいえる特別養護老人施設（海光園）も生名地区に新築され上島町は変貌期を迎えています。

また、この夏交流の一大イベントがあります。それは全国離島甲子園がわが上島町で開催されるのです。全国の離島から代表の野球少年達が入ります。上島町に集い夏の暑さを吹き飛ばしてくれることを楽しみにしております。少年たちの父兄を始めとして大勢の方々が来町されるでしょう。離島といえは全て過疎地域に指定されており先達て全国過疎問題シンポジウムに参加の機会を得ました。その基調講演の中で初めて聞くというか耳にした言葉、無縁社会と豊縁社会であり、縁とは（地縁、血縁、社縁）であり、近所、集落、地域での付き合い、交流等が含まれており、この縁こそ人生の宝であり過疎と言われている地域ほどこの宝は残っているが近年残念なことに消えつつある、そこで豊かな縁、豊縁社会にするにはどのようにすべきか、それはその土地で生活する人達自身で答えをだすべきこととでありました。この度の生名橋の供用開始によって新たな縁も生まれ地域の活力が出るでしょう。

町民の生活の向上、産業振興等の町の発展を望み上島町の未来図を描く時、上島架橋ぬきでは画くことは出来ません。架橋の全てが完成してこそ各地区の交流施設の有効利用が出来るの

です。

上島架橋の最後の橋、岩城橋の早期着工が待ち望まれます。上島町という瀬戸内海に浮かぶ原石を研ぎ輝かせられるのも我々住民です。町内どの地域に住んでいても住み続けたい、また訪れてみたいと思われるような明るい豊かな縁を持つまちづくりを住民と行政が一体となり推進して行くようではありませんか。新しい年が町民の皆様、上島町を訪れる皆様に幸多かれと願って新年のごあいさつとさせていただきます。

上島町議会議長 原 博彦

謹賀新年

